

水補給する事業で、ダムは洪水防止の役割も担っており、地域の上水道と工業用水も貯めています。今では、ダムをはじめ全ての事業が完成し、地域に大きな効果をもたらしています。

木元 いろいろなことを経験されていますね。

進藤 その後研究機関に出向し、農水省に戻ってから、かんがい排水施設の整備等の担当班長、予算総括の班長を4年間しました。次いで熊本県に3年間出向した後、国に戻り関東農政局で設計課長というポストにつき、そこからもう一度研究機関に行きました。その後海外担当の室長、更に人事担当専門官を経て中山間地域振興課長を最後に、昨年6月、農林水産省を辞職しました。そして7月から全国をぐるぐる廻りながら、土地改良関係を中心に地域の方々の意見を聴いています。土地改良事業の予算が各地でどれくらい足りないのかなど、農村地域の方々と意見交換し、政治的にしっかりと取り組んでいくべきとの要請に応じていこうと、全国を廻って勉強中なんです。ところで山上さんはどのような経営をされていますか。

土地改良事業、土地改良区の役割の発信が必要

山上 私の両親は昭和25年に2人で開拓して農業を始めたのですが、周りとは山からの水がなくて水田を作れなかったため、しばらく畑作物をやっていました。その後りんごを植えた方が良いということで、畑の土を入れ替えて、農家5軒で「ふじ」という品種を導入し、果樹農家を目指して、規模拡大をしてきました。



山上信子

進藤 土地改良との関わりはありますか。

山上 地球人会議に入って土地改良について聞いたり、現場に行ってみて、また「わくわく探訪」のようなお子さんを対象にした授業などに参加させてもらい、大切な仕事をしていることを初めて知りました。ついでには農業・農村の現状や農業の維持・発展に土地改良区の方々が頑張っているということを、県内の多くの方に理解してもらえるように、農業の現場にいる私達が積極的に発信していかなければいけないと思っています。

進藤 具体的にはどのようなことを発信すればよいと思いますか。

山上 例えば国の事業で、「農業だけ、あんなに予算を貰って」と、誤解を抱かれないよう、我々現場にいるものが用水がいかに大切で、その確保、保全のための土地改良事業や土地改良区の役割などについて、しっかり発信していかななくてはならないのではと思います。

農村における女性の役割、男性の役割

進藤 竹原さんはどのような取り組みをされているのですか。

竹原 私は八森の農家の出身で、高校卒業後、今は閉学した大潟村の農業短大に行き、そこで主人と出会いました。主人との結婚を契機に専業農家として稲作プラス畑作の複合経営で来ました。そして今から10年前に2軒の農家で法人化して株式会社を立ち上げました。

進藤 そうですか。会社の経営の方は順調ですか。

竹原 どうにか継続していたのですが、会社を創って5年目に、自分達の地域も「ほ場整備」が出来てこれからという時に、主人が癌を患い亡くなりました。それまで私は野菜の直売、加工やお菓子の商品開発などをやっていたんですが、主人がいなくなって自分の立場が女性の役割から男性の役割へと全く変わってしまいました。稲作での男性の役割は沢山あって、とにかく朝起きたら軽トラに乗って水を見に行くということなどが自分の仕事になってしまいました。

進藤 女性の役割から男性の役割に変わったのですね。今は経営は基本的にお米ですか。

竹原 今は米主体で合計46町歩ぐらいを請け負っており水田は30町歩ぐらいです。3人いる30代の社員が機械を乗りこなしてやってくれていますが、私はどうしても手仕事の方が多くなります。

グリーンツーリズムに奮闘中

進藤 木元さんはどのような取り組みをされていますか。

木元 西木町で、母の惣菜屋の経営を継ぎ、2000年に小さな商店街から国道沿いに移動し、手作り惣菜のお店を立ち上げています。2010年には母と私のガーデニングの趣味を活かして、ローズガーデンを併設しました。父親が作るお米やお婆ちゃんが育てている野菜の惣菜などを販売しており、家族とお客様との心のふれ合いがあるお店になってきています。

進藤 お店の周りにはどのような環境ですか。

木元 仙北市は秋田新幹線の2駅の外、交通網が整っており、観光資源も温泉街、スキー場など多

くあり、地域との連携や循環する観光を考えた方がいと思って、地域の観光協会に所属して色々取り組んできました。そこで東京へのPRキャンペーンに参画する機会を得る中、地元女性100人との繋がりができて、今でも当時の女性達が機会あることに集まっています。

進藤 その繋がりは素敵ですね。

木元 また平成23年に秋田県と国際教養大学が共催の「かつりよくびと活力人の養成講座」というセミナーに参加したのですが、「秋田県に必要なものは箱じゃなくて、たぶん地域に点在するキーマンをコーディネートする人が必要だ。」そして「地域間の交流と世代間の交流が大事で、そこに自ら問題意識をもって自分事として解決していくことが大事。」ということ学びました。

進藤 とても興味深いセミナーでしたね。ほかにも何か取り組んでいますか。

木元 ガーデニングでの五感で感じる幸せな気分を求めて来るお客様も多いことから、旬の情報をピンポイントでお知らせし、この店を好きになってもらった方がリピーター率も満足度も高くなると思いました。そういう集客の仕方をしていかなければならないと気づき、今は情報発信も含めてそれにチャレンジしています。

地域活性化のためにはコーディネーター育成、農業そのものが元気になることが必要

進藤 色々貴重な取り組みをお聞きしましたが、地域の活性化には何が必要だと思いますか。

山上 私たちが現場や地域で活動するためには、だれかが全体をまとめ上げて、それを伝え、活かして、それをまた元の現場へと橋渡しをしてくれるコーディネーター、人材の育成を、しかも年代ごとのコーディネーターを作ってもらえるといいなと思います。地域での取り組みが長く継続していけるような環境づくりに行政の方からも支援があるといいですね。

進藤 ネットワークづくりと、そこでみんなで情報を共有できればということですね。今「一億総活躍」が叫ばれていますが、各地域でそれぞれ情報共有できれば、お互いに融通したり、助け合ったり、そういうネットワーク化ができていくと、非常に良くなると思います。

竹原 私は、秋田の男性がもっと笑顔でいられるような世の中だったら、もっと良くなるなと思います。経営を担うことは男性も本当に大変だと思います。その基となる農業自体がもう少し良くなり、男性が笑顔になればと思います。そうすれば女性も自然に笑顔でいられると思います。

自分の地元、地域にもっと自信を持ってもらうことが大切 学校給食も地元産で

進藤 私はTPPでも、農業自体についてでも、若者に対して、暗い話ばかり言うのではなく、しっかり情報を提供して、やる気が出るようなことをしていくべきだと思います。しっかり立ち上がっていく人達の支援の仕方を考えていくことが大事であると。

竹原 そうですね。もっと具体的な話を聞いて、希望があれば頑張れますよね。

木元 今地元にいる子供さんたちに、もっとこの地域を好きになり、誇りを持って住み続けていくんだという意識になるように育てていく、人材育成が必要だと思います。地域にいる子供たち全員がこの地域から出ないという鎖国制度でも作った方が良いのでは。(一同笑い) それぐらいの意識で教育をしなければいけないし、そのように大人への教育もしなければいけないのではと思います。



木元千恵子

進藤 おっしゃる通りですね。秋田ということに誇りを持って、しっかりと残って、それでもいい生活ができるんだと伝えていくことが必要だと思います。又、私は各地で、「是非、学校給食は多少お金がかかっても、地元、自県、少なくとも日本のものだけを食べてもらいましょう。」と話しています。子供たちが地元の美味しいものを食べて育っていくことは、地域に対する誇りを持つことにもなると思います。また、最近、防災の観点で都会と協定を結ぶ地方の市町村がありますが、協定先から積極的に学校給食等の食材を調達すべきだとか、短期間でなく3ヶ月ぐらい都会の子供達を地方に連れてきて農作業に従事させてはどうかといった提案をする人もいます。

女性の視点を活かすことが大切

木元 実際、私たち女性は5年ぐらい前からその様なことをあちこちでしゃべってきていますが、まったく変わらないのはどうしてでしょうね。男の人にもいったい何を聞いているのでしょうかね。

(一同笑い。)男性と女性がお互いバランスが取れて共に育つ、協力していくという意識が必要だと思ひます。

山上 ものをちえていくには時間がかかるので、諦めないで言い続けてちえていく努力が必要ですね。お互い、男性の視点、女性の視点は、はっきりちう所もあるのではお互い認め合うことが必要だと思ひます。

竹原 農業関係はどこに行っても男性だらけで、社長の代わりに私が行っても男性の中にポツンといひるみたいなの状況なんです。でも何回か繰返してお互い慣れてくると、何とかなっていきみたいです。



竹原まゆみ

進藤 皆さんの話、女性のセンスとか、絶対男性では気付かないようなこととか、そういうことをどんどん発信して、広げているという感じがありますね。男性が担っている部分、女性が担っている部分がそれぞれあって、それを何が何でもここは一方がというのではなく、それぞれの感性とか、やる気だとかが活かせるような、そういう土壌、環境をどう作っていくかが重要だと考えます。

もっと農業・農村のアピールや、地域資源に付加価値をつけることが大切

進藤 加えて重要なのは、農業と農村をもう少し国民にアピールして理解していただくことですね。国家として農業・農村をどうすべきかということを一緒に議論し、「農業・農村は重要だよ」ということを理解していただいた上で対策をやっていかないといけないなと思ひます。更にもう一つは地域資源です。これから秋田を良くしていくにはどうすれば良いかと考えて行くと、秋田県はこれまで米中心でしたが、今後は秋田の地域資源にどのように付加価値をつけて、それを都会の資本でなく秋田の地域にどう還元していくかが大事で、そこに新たに時代の流れとか、人の見方を踏まえ、例えばヨーロッパの人達が、木元さんのところにゆっくり1週間か2週間滞在し、たっぷりお金を落としていきみたいな、そういうことができてくれば、日本や地方も良くなってくるし、秋田はそっちの方向でいけるのではと思ひます。

木元 私もそう思ひます。貧しいけれど、これだけ品格のある県はなかなかないと思ひています。

進藤 裏を返せばまだポテンシャルがあるということです。先ほど、竹原さんが話された「笑顔」の話のように、もう少し前を向いて、プラス思考でやっていって、その中で、あるべき論として「女性の役割」「男性の役割」ということでガチガチやるのではなくて、柔軟に双方の役割が分担できる環境整備が必要でないかという気がします。

木元 それから女性を道具みたいに言わないでほしいですね。本当にしっかり考えなくてはいけないのは足元じゃないでしょうか。家族と地域と学校、とすることになるかなと思ひますね。

農業・農村を元気にするには何が必要か 人材育成と情報発信と土地改良

進藤 これから農業農村を元気にするうえで、現場を見ててどんなことが必要だと思ひられますか。

山上 今、耕作放棄地とか、人手不足で農業が継続できない所の景観保全のための支援を盛んに地域でやっていますが、農家以外の方が地域の中でそれを守ろうと農家ともコミュニケーションが取れる現場も出てきているので、そういう所はこれからの支援を続けて貰いたいと思ひます。

竹原 農業そのものを守るのも大事ですが、農村の景観も皆で守っていかなくてはならないと思ひます。多面的機能支払という新しいものと景観保全とは微妙なところもあると思ひますので、その兼ね合いのところ宜しくお願ひします。

木元 一言で言うとやはり人材育成が大切ではないでしょうか。農業を理解してもらひ発信の仕方を変えて貰うとか、どういう情報伝達の仕方が有効なのかとか、どういう人たちに解って貰えればもっと広がるのかとかという面に力を入れ、理解を深めた方がいいと思ひます。

最近話題となっているドローンで人が入っていない場所とか、そういう細かい場所を撮影し、動画で見せるということはすごく印象的でインパクトがあり、それをweb関連とかネットを活用した発信の仕方をもっと強くやっていくと、もっと広がりを持つてくるかと思ひます。

進藤 本当に色々とありがとうございました。大変勉強になりました。農村地域で女性の活躍ができる環境づくりには、まず農業がしっかり元気であることも再確認できました。そのために必要な土地改良事業がしっかり進められるよう、引き続き頑張りたくと思ひます。

山上・竹原・木元 どうもありがとうございました。今後も宜しくお願ひします。

県新任挨拶



農林水産部長
さとう ひろし
佐藤 博

日頃より本県の農業施策の推進に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、県では、複合型生産構造への転換を促進するため、園芸振興のシンボルである「園芸メガ団地」に加え、新たなネットワークタイプの園芸拠点の整備や、農地中間管理事業を活用した経営規模の拡大に向けた支援のほか、マーケットインの視点に基づく流通販売対策など、農業者の所得拡大に向けた取組を強力に推進しているところです。
また、T P P協定の発効を見据え、本年3月に策定した「秋田県T P P農業関連対策大綱」においては、農業の構造改革を加速化するための施策として「担い手対策」、「生産振興対策」、「生産基盤対策」を三つの柱に位置付けており、「生産基盤対策」としては、稲作の低コスト化や経営の複合化に向けて、ほ場整備などの土地改良事業を積極的に推進していくこととしています。
活力ある秋田の創生実現には、農林水産業の成長産業化が不可欠であり、秋田の強みを活かし、産地間競争に打ち勝てるよう「攻め」と「守り」の両面から関連施策を着実に実施してまいりますので、引き続き御支援をお願いいたします。



農林水産部次長
たきがわ たくや
瀧川 拓哉

水土里ネット会員の皆様におかれましては、日頃より本県の農業施策の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、本県の平成28年度の土地改良予算については、平成27度補正予算と平成28年度当初予算を合わせて、前年度を大きく上回る執行予算を確保することが出来ました。このことは、秋田県土地改良事業団体連合会や土地改良区、市町村の皆様が「現場の声」と「土地改良の重要性」を各方面に粘り強く訴え続けて頂いた成果であると考えています。
県といたしましては、今後とも、計画どおりに事業を推進することができるよう必要な予算の確保に努めてまいりますので、皆様におかれましても引き続き力強い御支援をお願い申し上げます。本年度もよろしくをお願いいたします。



農地整備課長
さとう のぶよし
佐藤 暢芳

皆様におかれましては、日頃より本県の農業農村整備事業の推進に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。
また、本県農業の基盤となる「農地」や「農業用水」などの保全・管理の役割を、それぞれの地域において365日昼夜問わず担っておられますことに、改めまして敬意を表します。
こうした農業の基盤を、次代に引き継いでいくという極めて重要な役割を担っておられる水土里ネット会員の皆様の「強い思い」に応えるべく、本年度も現場のニーズを着実に施策に反映して参りたいと考えております。引き続き御支援のほどよろしくお願い申し上げます。



農山村振興課長
いとう まひと
伊藤 真人

このたびの異動で農山村振興課長を拝命しました伊藤です。
水土里ネット会員の皆様におかれましては、日頃から農業農村事業の円滑な推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。
T P Pや農政改革など、我が国を取り巻く農業情勢が大きく変化する中、本県においても農業の体質強化を急ぐ必要がありますが、県では「強い担い手づくり」や「複合経営への転換」、「構造改革を支える水田対策」などを柱に、農業者や地域の意欲ある取組をサポートしていくこととしております。
今後とも、地域や関係機関の声にしっかりと耳を傾け、現場のニーズを踏まえた施策・事業の展開に努めてまいりますので、引き続き、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。